



(財) J K A 補助事業 平成20年度事業概要

(3) 超電導産業に関する国際連携推進事業 (国際超電導産業サミット)

「第17回国際超電導産業サミット (ISIS-17)」が平成20年10月30日～31日の2日間、日米欧3機関の共催によりつくば国際会議場で開催された。ISIS-17においては、日・米・欧・ニュージーランド・韓国・中国から超電導関連機関・企業の経営・技術トップなど約40名参加のもと、超電導技術の実用化に向けた今後の課題等広範な意見の交換、議論ができた。今回のサミットでニュージーランドが正式メンバーとして認められ、今後サミットは日米欧に加えニュージーランドにより運営されていくことが決定した。日本からは I S T E C が主体となり進めている「リチウム系超電導電力機器技術開発」プロジェクトに関する報告が、また米欧からもそれぞれのプロジェクトが紹介された。韓国では DAPAS 計画が最終フェーズに入り、高温超電導実用化に向け加速している旨報告された。エネルギー問題は我々の安全保障にも関わる問題である一方、CO₂排出に伴う地球温暖化問題は全世界共通の課題でもある。自然エネルギーの利用技術、省エネ技術は持続的な経済発展を約束するものであり、超電導技術は大きな選択肢の1つであるとの認識で一致した。また、従来から「サミットが、超電導の商業利用がもたらす利益について一般の理解を深め、早期の市場導入を進めるため、これまで一定の役割を果たしてきた。」との認識は一貫している。



ISIS-17

* ISIS-17 については超電導 Web21 バックナンバー2008年12月号に詳細が記載されているためご参照下さい。

<http://www.istec.or.jp/Web21/index-J.html>